



JAAGAだより

日米エアフォース友好協会
Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会
〒162-0002
東京都新宿区坂町 28-5
ZEEKS 四谷坂町ビル 3F
編集：JAAGA事務局
印刷：アロー印刷株式会社
ホームページ：http://www.jaaga.jp/

平成27年度 JAAGA 総会開催 JAAGA Annual Convention held on 12 May 2015

平成 27 年度 JAAGA 総会が 5 月 12 日(火)、グランドヒル市ヶ谷において、講演会、懇親会とともに開催された。あいにく台風 6 号が転じた温帯低気圧が関東地方に接近中とあって、懇親会終了時には風雨が強まってきたが、一連の行事は整齊と実施された。

【総会(General Meeting)】

年次総会が 15 時から 16 時 15 分までの間開催された。審議に先立ち、昨年度ご逝去された故石坂公之助氏、故川口豊氏、故美濃谷一義氏の御冥福を祈り、全員で黙祷を捧げた。引き続き、外薮健一朗会長から、「会長就任後 1 年経ち、会員のサポート、理事の積極的な業務推進の姿を目の当たりにし、心強く思い感謝している。新たな理事、会員を迎え、ますます JAAGA の活動が活発になることを希望する。2 週間前、安倍総理が渡米しオバマ大統領と会談し、日米同盟がますます堅固になるとのモチベーションが上がった。JAAGA はボランティアのサービスとして、航空自衛隊と米空軍との間の友好・協力関係がますます促進されるよう、側面からしっかり支援していきたい。6 つの議案の審議への協力をお願いする」との挨拶があった。

正会員総数 243 名の内、出席者 63 名、委任状提出者 151 名の計 214 名をもって会則の規定により総会が成立した旨、進行担当の福井理事から説明があり、議案審議、報告事項、新旧役員等の紹介の順に審議等が進められた。

議案審議は、第 1 号議案(26 年度事業報告)、第 2 号議案(26 年度決算報告)、第 3 号議案(27 年度事業計画(案))、第 4 号議案(27 年度予算(案))、第 5 号議案(会則の一部改正(案))、第 6 号議案(副会長・監



President Hokazono presides over the meeting

事の選任(案))の 6 つの議案について担当理事による説明があった後、議案によっては質疑応答を通して突っ込んだ意見交換が行われた。その結果、何れの議案も提案通り承認された。特に、年度事業に係る議案では、各種研修や会勢拡張のあり方が話題となった。また、会則については、名誉会員の対象が、従来の米第 5 空軍司令官経験者に加えて、米太平洋空軍司令官経験者も含むよう、一部改正が承認された。新副会長・監事の選任を経て全ての議案の審議が終了した後、報告事項として、役員会で選任された新理事、支部役員等が報告された。最後に、新役員等及び退任者並びに理事の所掌分担が紹介され、外薮会長からの期待と感謝の言葉に続いて出席会員全員から温かい拍手が送られ、定刻をもって総会議事を終了した。

【講演会(Lecture)】

嘉手納基地の第 18 航空団司令 Brig. Gen. Barry R. Cornish による講演が、16 時半から 18 時までの間、「相互安全保障と繁栄への貢献(Dedication to Mutual Security and Prosperity)」の演題で実施された。

講師と Missy 夫人が拍手に迎えられて入場し、進行担当の彌田理事から講師の経歴として、本年 4 月 2 日に米太平洋空軍司令部司令官付補佐官から嘉手納基地の現職に着任した旨、及び 25 年間の軍歴を F-15 戦闘機操縦士としての任務や戦闘機搭載武器等の開発に従事し、戦略情報、国防産業、資源管理、経済に



Deliberation of Agenda among Regular Members



Guest Speaker, Brig. Gen. Barry R. Cornish, gives a lecture to JAAGA members and JASDF officers on the subject of “Dedication to Mutual Security and Prosperity”

も造詣が深く、幅広い視野と多くの視点から安全保障に貢献し、5空軍や太平洋空軍から信頼が厚い旨、並びにネリス空軍基地に2回勤務し、嘉手納基地勤務も今回で2回目である旨が紹介された。日英の逐次通訳は、米第5空軍司令官兼在日米軍司令官の特別補佐官であるMs. Janette Colemanが的確に務めた。

講話は、〈THE HISTORY OF OUR ALLIANCE(日米同盟の歴史)〉、〈WHAT THIS ALLIANCE ENABLES US TO DO(日米同盟が可能にするもの)〉、〈KADENA’S ROLE IN THE FIGHT(嘉手納基地の役割)〉、〈OUR HUMANITARIAN FOOTPRINT(人道分野の足跡)〉、〈REGIONAL THREATS TO PEACE AND STABILITY(地域における平和と安定への脅威)〉、〈ACTIONS TO ENSURE OUR JOINT SUCCESS(共同を成功させるための行動)〉という構成で展開された。全体として、55年を迎えた日米同盟の意義、(嘉手納基地の活動を例示しつつ)航空力及び沖縄の戦略的重要性、(アジア太平洋地域の特性を踏まえた上での)地域の平和と安定のための取り組み(具体例として、下士官交流プログラム、TSP(Theater Security Package:戦域安全保障パッケージ)、日米共

同訓練の3つを例示)について、強調された内容であった(講話内容は、HP(<http://www.jaaga.jp/>)に和英文を掲載)。

講話の途中、「第18航空団での勤務は2度目。沖縄は大好きな場所であり米空軍勤務で一番良い場所だと思っている。前回の勤務を終え沖縄を出るとき私は、ある噂を聞いた。それは『いずれ団司令として沖縄に戻ってくる』である。その噂が現実となった。今夜私は、新たな噂を流そうと思う。『いつか5空軍司令官として戻ってくる』という噂を。どうか皆さん一緒に広めてほしい。」と満場の拍手を受けながら、親日感溢れる想いが吐露される一幕もあった。

約40分間の講話に引き続いて、以下のように活発な質疑応答がなされた。

Q1: 東アジアの安全保障について、太平洋空軍勤務時の考え方と、実際に沖縄で勤務しての印象に違いはあるか？

A1: 太平洋空軍司令官が戦略的観点で太平洋地域全体を捉えている姿を日々見てきたが、今自分は戦術的レベルの見方に変わってきている。沖縄での空自と米空軍の良好な関係が太平洋地域にとっての平和の基礎となっており、2国間の協調、友好関係が太平洋地域全体に広がっていけば良いと感じている。

Q2: 沖縄周辺の国の空軍についてどのように評価しているか。

A2: 重要なことは、公海及び上空でどのような国際的な取り決めがあり、それがその国に適用されているのか、それをその空軍が理解しているのか、理解した上で行動しているのか、であると考えます。自国領域外での活動には多くの責任が生じる。ICAO、シカゴ条約等をそこで活動している空軍が知っているか否かを知るところから我々は始めなくてはならない。これらに則って活動していない場合は、次にどのような行動に出てくるのか非常に不透明になる。このようなことに細心の注意を払っ



Scene of lecture and following enthusiastic questions and answers session



ている。その地域で行動する空軍には、責任のある行動、責任のあるパートナーとしての行動が求められると考える。

Q3: 嘉手納の隊員と地元との関係は如何か？

A3: 問題は生じていない。抗議活動はあるが殆どがとも平和的に行われている。隊員が地域で交流を持とうとするとき、沖縄の人ほど親切、友好的、もてなし上手で素晴らしい人々は居ないと私は感じている。米軍人、米国人は沖縄が大好きだし、沖縄の方々も米国を好きであり、良い印象を持っていてくれると思う。もちろん普天間移転、沖縄の状況についてレベルによって色々な考えがあるとは思いますが、個人的レベルでは、沖縄の方々には米軍関係者に対して尊敬と尊厳を持って日々接してくれている。

Q4: 米空軍が従来のプラットフォーム中心からネットワーク中心の空軍に変わって行く中にあって、同盟国と共同作戦をする場合の着意は何か？

A4: ネットワーク中心の空軍には脆弱性が伴う。特にインターオペラビリティの観点から重要なことは、情報の共有 (Security)、技術的な問題 (Technological)、文化的な問題 (Cultural) である。個人、組織の文化的な違いを超えて協力していくことに焦点を当てる必要があると考える。インターフェースをよりよくすることにエネルギーを注ぐ必要があるが、それによって国益を守っているのか、ネットワークを使わないで出来るのか、ネットワークがない環境で国益を守るために何ができるのか、ということも考えなければならないし、我々が直面する大きな問題になって来よう。安全保障面で日米がよりよく協力していくためには、良い関係に加えて、文化的違いを超えていく必要があるのではないかと考えている。

Q5: 団司令としての統率方針、指導方針は何か？

A5: 私の方針は「Servant Leadership」だ。効果的なリーダーであるためには部下のために尽くすことが必要であり、毎日、自分のために働いてくれる人に何ができるかを考えている。私の下で働く様々な階級の隊員に、誰のために働いているのかと、毎日問いかけている。彼らは力強く誇りを持ちながら「あなたのために働いている」と答えてくれる。しかし、私は、「それは違う。あなたはあなたの後ろにいる人のために働いているのだ」と正す。フォロワーのために働くのが私の

哲学だ。リーダーの仕事は、毎日障害を取り除き、部下が仕事をやりやすく任務遂行意欲を高く持てる環境を作っていくことである、と考えている。

Q6: ネットワーク中心の作戦は脆弱性も有するが、攻撃等によって機能が低下した環境 (Degraded Environment) 下で能力を発揮するために、どのように訓練を行っているか？

A6: ある演習で、全てのシステムが正常な状況から訓練を開始し、サイバー攻撃の状況を付与し組織的にシステムの特定部位の機能を低下させた。サイバー攻撃の興味深いところは、どのように攻撃されているのか、何が使えなくなっているのか、情報がどう操作されているのかがすぐには分からないこと。演習のプレーヤーにはサイバー攻撃を受けているということを伝えた上で、ネットワーク上に出てきているものが全て真実だとは思わず、と伝えるところから始めている。演習の中でシステムを元に戻せる状況もあれば、そのままオペレーションを続けなければならない状況もある。システムが戻らない場合は、そのような中でどのように創意工夫してオペレーションをしっかりとやっていくかという演練になる。その方がたぶん現実的環境の中でのオペレーションになると思う。制限がかかる中でのオペレーションになる可能性が実際には高いことを隊員に理解させることが重要ではないかと考えている。Degraded Environment は実際の戦闘では通常の状態であろうから、それを想定した訓練を様々な場を使って行っている。

会員からの質問に講師は真摯に応じ、質疑応答セッションは時間ぎりぎりまでの 50 分間に及んだ。

最後に外衛会長から、「素晴らしい講話と、それ以上に実り多かった質疑応答に感謝する。あなたの将来に関する『噂』を日本中に広めることを約束する。」とのユーモア溢れる謝辞に続き、「ささやかではあるが心からの贈り物をあなたとご夫人に。」との言葉と共に記念品が渡され、講演会は定刻をもって終了した。

【懇親会(Reception)】

懇親会は 18 時 15 分から約 1 時間半にわたり、会員、招待・案内者、防衛省及び米軍の現役等、200 名を超える関係者が集まり実施された。谷井理事の英語による司会進行(スピーチも全て英語)により、冒頭、会場正面に掲揚された日米両国の国旗に正対し、米国、日本の順に国歌が吹奏され、全参加者が両国に敬意を表した。

引き続き、外衛会長が登壇し、ゆっくりと大きな声で、「Ladies!, and, Gentlemen!」と会場を一気に和ませ、「ご来場の皆様を始め、JAAGA の会員、友人の皆さんの理解と協力に感謝する。米第 5 空軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella が 6 月に退役されることを紹介したい。Lt. Gen. Angelella は 5 度にわたる日本勤務を通して日本をよく理解され、日米同盟を強固にする



President Hokazono presents a memento to Brig. Gen. Cornish

は力強く誇りを持ちながら「あなたのために働いている」と答えてくれる。しかし、私は、「それは違う。あなたはあなたの後ろにいる人のために働いているのだ」と正す。フォロワーのために働くのが私の

ための多くの顕著な功績を残された。彼とMarci 夫人に心から感謝と尊敬の念を表したい。残念ながら本日はこの場には居られないが、三沢で最終フライト中である。会則に則り、彼に名誉会員を要請することとしたい。つばさ会の附属組織としてJAAGAは、航空自衛隊と米空軍の友情と相互理解を促進するための様々な活動を行っていくので、これからも皆様のご理解とご協力を賜りたい。」と挨拶した後、「この懇親会は可能な限りシンプルな形で開催したいので、私のスピーチが唯一のスピーチ (Only Speech) だ。レセプションを思う存分楽しんでほしい。」と再び会場を沸かせた。

引き続き、主賓の原田憲治防衛大臣政務官、佐藤正久参議院議員、中谷真一衆議院議員、航空総隊司令官杉山良行空将、米 18 航空団司令 Brig.Gen. Barry Cornish 夫妻が紹介され、次に、メインテーブルの来賓

が時計回りに、航空幕僚副長森本哲生空将、補給本部長吉田浩介空将、技術研究本部技術開発官小城真一空将、航空総隊副司令官前原弘昭空将、幹部学校長小野賀三空将、富田勝也福生・横田交流クラブ副会長、石塚幸右衛門瑞穂町長、竹河内捷次つばさ会前会長、遠竹郁夫つばさ会会長、吉田正つばさ会副会長、杉本正彦 JANAFA 会長、米第 5 空軍 A6 部長 Col. Sam Bass、航空支援集団司令部西ひとみ 2 等空曹 (26 年度 JAAGA 賞受賞者)、統合幕僚監部運用部長武藤茂樹空将、中部航空方面隊司令官平本正法空将、航空開発実験集団司令官岩成真一空将、情報本部長宮川正空将、航空支援集団司令官福江広明空将と、順次紹介された。この他にも多くの自衛官、米軍人の参加を得ている旨とともに、佐藤正久参議院議員、北部航空方面隊司令官尾上定正空将からの祝電が紹介された。



President Hokazono gives a welcome address to the participants

そして、谷井理事の「The time you want comes. Please enjoy the rest of time, delicious food, drinking and chatting.」を合図に、一気に場はくだけて和気藹々とした宴が始まった。会場内には新たな出会い、懐かしい再会を含め、随所に懇談の輪が生まれた。今回米軍人には大尉クラスが多く見受けられたが、彼らは一様に JAAGA の存在と活動に親近感を持ち感謝していると語ってくれた。また、同階級の空自の若手幹部と交流を持つことが出来れば、将来に亘って両国にとつ

て有益であろう、との声も聞かれた。

時間の経つのはあまりにも速く、あっという間に終了時刻が近づいた。織田副会長が「2 週間前安倍総理が米議会におけるスピーチで仰った『Alliance of Hope』とは、JAAGA そのものである。」と挨拶した後、「Alliance of Hope のために乾杯！」との発声により、熱気あふれる懇親会は閉会となった。その後も暫く、温帯低気圧を吹き飛ばすかのような余韻がにぎやかに続いていた。

(木村(和)理事記)

グアムにおける日米豪共同訓練参加隊員を激励 JAAGA cheers JASDF participants to Cope North Guam 2015

1 月 19 日(月)午前に上田理事長、長島理事及び木村(和)理事が航空支援集団司令官福江広明空将を訪れ、また、1 月 27 日(火)午後には、同じく上田理事長、長島理事及び早坂理事が航空総隊司令官杉山良行空将を訪れ、グアムにおける日米豪共同訓練及び日米豪人道支援・災害救援共同訓練に参加する航空総隊及び航空支援集団の参加部隊を激励(JAAGA からの激励品を手交)し、訓練の成功を祈念した。

懇談の席において、福江司令官からは「支援集団司令部と航空総隊司令部は、所在基地は離れてもマインドは一つです。今回は、米軍の関心も強い機動衛生分野の訓練も実施します。また、航空総隊隷下となった航空救難団から救難捜索機 U-125A が初めて参加します」との訓練に対する意欲的な言葉があり、杉山司令官からは「参加部隊は予定通りグアムに向け展開中です。本訓練への参加隊員はECL試験の合格が必須ですが、その試験の難易度が年々徐々に高くなる傾向にあるように思います。空自隊員の英語能力の更なる向上は避けて通れない状況にあることを改めて感じます」との切実な発言があった。また、両司令官から「この度の共同訓練等に対する JAAGA からの激励の趣旨は現地部隊指揮官にも伝え、隊員の士気の更なる高揚とともに、実り多き訓練となるように努めます。今後も JAAGA からの広範な御支援を期待します」と感謝の意が表せられた。

訓練は、展開・撤収を含み 1 月 27 日(火)～3 月 12 日(木)の期間、米国グアム島アンダーセン空軍基地、北マリアナ諸島サイパン島、テニアン島、ロタ島及びフアラロン・デ・メディニラ空対地射場並びに同周辺空域に



JAAGA Chairman Ueda, Director Nagashima and Kimura call on Lt. Gen. Fukue, Commander of Air Support Command in Fuchu AB on 19 Jan. 2015



JAAGA Chairman Ueda, Director Nagashima and Hayasaka call on Lt. Gen. Sugiyama, Commander of Air Defense Command in Yokota AB on 27 Jan. 2015

において実施された。

グアムにおける日米豪共同訓練は 2 月 11 日(水)～2 月 27 日(金)、日米豪人道支援・災害救援共同訓練は 2 月 15 日(日)～2 月 18 日(水)、それぞれ実施さ

The American football held by Director Nagashima is an autographed ball by Mr. Riki Ellison, MDAA Chairman. The ball was given to Lt. Gen. Sugiyama, the then Commander of Southwestern Composite Air Division, on the occasion of 2013 Okinawa Missile Defender of the Year Award Ceremony hosted by MDAA, at which 5 members of 5th Air Defense Missile Group were among the winners



れた。両訓練を通じて、航空総隊からは第 6、第 8 航空団、航空救難団及び警戒航空隊(三沢)の人員 359 名、F-15J/DJ×6 機、F-2A×8 機、U-125A×1 機、E-2C×2 機が、航空支援集団からは第 1 輸送航空隊及び航空機動衛生隊の人員 101 名、C-130H×2 機、KC-767×2 機が参加した。グアムにおける日米豪共同訓練

では防空戦闘、えん護戦闘、戦闘機戦闘、空対地射爆撃、電子戦、空中給油、戦術空輸及び搜索の訓練が、日米豪人道支援・災害救援共同訓練では航空輸送、物料投下、不整地離着陸、搜索及び航空患者搬送の訓練が実施された。

(早坂・木村(和)理事記)



C-130H Crew on training "Air Drop mission"



E-2C, JASDF at Andersen AFB in Guam



U-125A, JASDF at Andersen AFB in Guam



F-2, JASDF at Andersen AFB in Guam

COPE NORTH 15



Andersen Air Force Base, Guam
15-27 February 2015





Several scenes in Guam during exercise

日米下士官相互部隊研修を支援 Japan-U.S. Bilateral NCO Exchange Program

激励品を手交

1月13日(火)、上田理事長、長島、渡部両理事が空幕人事教育部長武藤茂樹空将補を、1月23日(木)、上田理事長、長島、早坂両理事が第5空軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelellaを表敬し、平成26度日米相互特技訓練を激励した。

空幕においては、武藤人教部長から、JAAGAからの現場への支援を大変有難く感謝しているとの謝意とともに、「本訓練は日米相互理解に大変重要なプログラムであり、F-35の導入に向け、必要な英語能力向上にも期待しています」との説明があった。また、上田理事長からは、「准曹士先任の経験者がJAAGA理事に就任してもらえる予定であり、下士官レベルの日米交流の更なる支援ができればと思っています」との発言があった。なお、表敬には本訓練担当の教育課個人訓練班の上治准尉が同席し、計画概要の説明があった。

5空軍においては、Angelella司令官から、冒頭、日頃からの米空軍の活動に対するJAAGAのご理解とご支援に大変感謝しており、先のAFA総会参加時の交流も思い出深い旨の発言があり、更に今年度の交流計画の概要を説明の上、「NCO Exchange Programは長い歴史があり、過去2度の三沢基地勤務においても部隊指揮官として隊員派遣受け入れを経験したが、下士官相互の理解促進を図る上で大変すばらしい機会である。本プログラムに対するJAAGAのご理解ご支援に感謝します」との謝意が示された。加えて、航空総隊との間で今年度から実施している航空機整備員に対する新たな交流についても自ら視察に出向く旨の説明があった。表敬には副司令官 Brig. Gen. David A. Krummも同席され、激励品を手渡したCCM(Command Chief Master Sergeant) James A. Laurentからは、本年度の交流プログラムに対する意気込みと具体的な差出計



JAAGA Chairman Ueda, Director Nagashima and Watanabe call on Maj. Gen. Mutoh, and W.O. Ueji, ASO on 13 Jan. 2015 to cheer JASDF-NCO participants



JAAGA Chairman Ueda, Director Nagashima and Hayasaka call on Lt. Gen. Angelella, Brig. Gen. Krumm and CCM Laurent, 5AF on 23 Jan. 2015 to encourage USAF-NCO participants

画について説明があった。

日米相互特技訓練は、平成7年度(当時 Angelella司令官は飛行隊長として三沢基地勤務)から日米相互部隊研修として実施してきたが、本年度からは「空曹の特技能力向上と、実務レベルにおける相互理解を深め日米共同対処能力の基盤を強化すること」を目的として内容を充実し、名称も変更したものである。本年度の計画は、左下表の通りであり、より充実した交流が期待される。(渡部、早坂理事記)

日米相互特技訓練概要

空自隊員→米空軍基地 (JASDF→USAF)		
受け入れ基地	期間	人員
三沢 (MISAWA)	27.2.3～13	10
横田 (YOKOTA)	27.2.17～27	12
嘉手納 (KADENA)	27.3.3～13	8
米空軍下士官→空自基地 (USAF→JASDF)		
受け入れ基地	期間	人員
那覇 (NAHA)	27.1.27～2.5	6(3)
岐阜 (GIFU)	27.5.27～6.3	5(2)
小牧 (KOMAKI)	27.3.20～27	10(3)

※()内は、視察者数で外数。

空自隊員の米空軍部隊研修

三沢基地 (Misawa AB)

三沢基地では、第35戦闘航空団において、2月2日～13日、空自隊員10名の特技訓練が実施された。

訓練初日には第35戦闘航空団 CCM (Command Chief Master Sergeant) Gary P. Sharp による日米交流の重要性和訓練の意義に関する講話が行われ、参



at Kadena AB



加者の空自隊員が温かく迎え入れられた。その後、米空軍三沢基地の概要及び、訓練日程に関するコマンド・ブリーフィングを実施したのち、各特技訓練先及び米空軍基地施設に関するツアーが実施された。

横田基地 (Yokota AB)

横田基地では、第 374 空輸航空団において、2 月 17 日～27 日、空自隊員 12 名の特技訓練が実施された。初日のコマンド・ブリーフィングを含む受入れについては、受入れ担当者のきめ細やかな配慮があり、スムーズな導入が行われた。アイス・ブレイカーには CCM. Paul M. Elliott III をはじめ、訓練を受入れる各部署の CMSgt. も出席し、ホスト側の米空軍下士官に対して、声かけをして訓練の動機付けを行う等、積極的な訓練の受入れが行われた。また、CCM. Elliott の配慮で、訓練参加者は、米空軍の行事であるチーフ・レコグニション・セレモニーにも参加することができ、貴重な経験を行うことができた。

嘉手納基地 (Kadena AB)

嘉手納基地では、第 18 航空団において、3 月 2 日～13 日、空自隊員 8 名の訓練が実施された。嘉手納基地においては米空軍の下士官営舎が宿泊先として提供されるなど、訓練の効果を高めるべく、担当者による様々な努力が行われた。訓練参加者は、訓練先の職場だけでなく、営舎内での生活も体験することで、多くの知見を得ることができた。三沢や横田と違い、自衛隊が所在しない米空軍基地での訓練は、ほとんどの場面で英語でのコミュニケーションとなり、まさに英語漬けでの訓練となった。

(空幕教育課上治忠善准空尉より)

米空軍下士官の空自部隊研修

那覇基地 (Naha AB)

那覇基地では、1 月 27 日～2 月 5 日、在日米空軍



at Yokota AB



at Misawa AB



下士官特技訓練に、第 18 航空団(嘉手納基地)所属の航空機整備(2 名)、武器弾薬、機上電子整備、計測器整備、エンジン整備員の 6 名が参加した。

小雨降る中での出迎えにおいては、受け入れ側の空自隊員も緊張した様子で待機していた。

83 空隊准曹士先任を始めとする受け入れ部隊の准曹士先任も合流し、全員での記念撮影を実施し、会議室にて 83 空隊の状況説明、隊員の自己紹介を済ませ基地内見学を行った。基地内見学においては、沖縄戦戦跡の「砲台」を見学し米軍側の参加者は興味津々で見入っていた。

午後からは、それぞれの職場において相互にコミュニケーションを取りながら自衛隊と米空軍の似たところや



USAF participants and JASDF members at Naha AB

On The Job
Training at
Naha AB

違うところを意見交換していた。

週末は、バディ同士又は職場で観光やレクリエーションを楽しみ、交流・親睦を深めていた。

研修最終日には、フェアウェル・パーティー(会食)を隊員食堂で行い、初日とは見違えるほどの英語によるコミュニケーション能力を向上させた隊員も見受けられ、英語は「習うより慣れろ」であると感じた。

ギフト交換では、受け入れ部隊を代表して 83 空隊から記念盾と、参加した米軍人全員に 83 空隊司令鈴木康彦空将補より訓練参加証明書と記念メダルが贈呈された。

また、バディ同士のギフト交換も行われ、それぞれの思いを記念品として交換していた。

日米統合訓練の足がかりとして、個々のコミュニケーション能力(英語)向上に非常に有効な手段と思える。

次回までには、自分も英語能力を向上させて更に深い関係を築き上げていきたいと思った。

(83 空隊准曹士 前任 准空尉 荻野浩幸より)

小牧基地 (Komaki AB)

小牧基地では、3 月 20 日(金)～3 月 27 日(金)、平成 26 年度在日米空軍下士官の特技訓練の受入れを実施した。

本特技訓練には、米空軍第 374 空輸航空団(横田基地)から、航空機整備、エンジン整備、車両整備、補給、通信、衛生、給養、航空管制、気象、教育訓練の特技



On The Job Training at Komaki AB





CMSgt. Elliott calls on Maj. Gen. Nonaka, Commander, Komaki AB



USAF participants and JASDF members at Komaki AB



Enjoying chatting and sightseeing in leisure hours to enhance their friendship



の下士官 10 名が来基した。また、本特技訓練の視察のため、第 374 空輸航空団最先任下士官 CMSgt Paul M. Elliott III 以下 3 名が訪れ、第 1 輸送航空隊司令野中盛空将補を表敬した。

受入れでは、航空機等、その他の装備品の研修及び特技ごと各部隊での特技訓練を主として実施した。その他、体育訓練としてサッカーを実施し、互いにコミュニケーションをとりつつ汗を流した。また、休日には史跡研修として愛知県犬山市にある国宝犬山城を研修し、参加者は天守閣から身を乗り出して風景を楽しみ、数々の展示物に深く興味を示していた。

訓練受入れに当たり、当初は小牧基地隊員及び米空軍参加者共に緊張した面持ちであったが、時間の経過とともに、積極的に英語での意思疎通を図り、最終日の見送りでは多くの隊員が別れを惜しんだ。本特技訓練受入れを通じて、米空軍下士官と航空自衛隊准曹士隊員の相互理解及び絆を深めるとともに、より強固な信頼関係及び友好関係の構築の一助とすることができた。

(1 輸空隊人事部 2 等空曹 深江秀昭より)

岐阜基地 (Gifu AB)

岐阜基地における本研修は、在日米空軍部隊である第 35 戦闘航空団(三沢基地)の米空軍下士官 5 名が参加し、5 月 27 日(水)～6 月 3 日(水)、実施された。

当初、7 名の研修者を受け入れる予定であったが、最終的には 5 名の研修者となった。衛生特技 1 名を岐阜病院、補給特技 1 名、輸送特技 2 名、燃料特技 1 名を第 2 補給処において受け入れ、米空軍下士官それぞれの特技に関係のある部隊で研修に臨んだ。

研修受け入れ初日、米空軍随行者であるチーフ 2 名が岐阜基地司令松谷淳一空将補を表敬した。懇談の



Beating "TAIKO", Japanese drum, real OJT in culture!, at Gifu AB

中で松谷基地司令は、「この部隊研修を通じて日米空軍の絆を更に深めるとともに、特に若い隊員には、お互いの文化等を学ぶことにより信頼関係を築いて欲しい」と語った。その後行われたアイスブレイカー・パーティーでは、心配していた言葉の壁はなく、つたない英語とボディランゲージを駆使して積極的にコミュニケーションを図り、笑い声と会話が絶えない歓迎の宴となった。

2日目午前、コマンド・ブリーフィングの時間を設け、英語競技会選手による岐阜基地の概要説明を研修者に行い、随員チーフからは第35戦闘航空団の概要説明を受け、お互いの職務等の理解を深めた。その後、2グループに分かれて自分のバディを確認し、自己紹介及び情報交換を行った。午後からは飛行開発実験団及び岐阜管制隊を研修した。

3日目からは、それぞれの受け入れ部隊が「おもてなし」の心で計画した研修内容を実施した。特に、研修の合間に日米混合4チームで実施したバレーボールでは、良い汗をかくとともに、更にお互いを知ることができた。また、期間中の課業外に陶芸部、書道部、太鼓部の協力を得て、日本文化等に触れる体験を実施した。陶芸においては、研修者それぞれの家族の名前を漢字に変換してカップに書込み、お土産とした。

休日は、バディの隊員等と共に白川郷へ史跡研修に行き、野外博物館で草木染めの体験をし、展望台から世界遺産を堪能した。また、翌日には岐阜基地准曹会長の計画により、名古屋城の見学、大須の街並みを体験する等、名古屋観光を行った。

最終日、研修に対する意見交換会を実施し、夜はフェアウエル・パーティーを開催した。日米参加者は更に友好を深めるとともに、ギフトの交換をし、再会を約束していた。中には別れに感極まり、涙をながす若い隊員もいた。研修者は、「岐阜基地隊員の手厚いおもてなしに感激した」「今度は是非、三沢基地に来て欲しい」と言う言葉が多かった。また、受け入れバディとなった隊員は、「伝えたい気持ちが言葉にならなかった。もっと、英会話ができるよう努力したい」という声が聞かれた。

本研修を通じて米空軍下士官と航空自衛隊准曹士隊員のお互いの理解を深め、より一層の信頼関係が築けた。特に若い曹士隊員にとっては米空軍との距離が

縮まり、得難い経験をし、今後の職務に対する意欲に繋がったことと思う。

(第2補給処准曹士先任准空尉高園都美男より)



On The Job Training at Gifu AB



USAF participants and JASDF members at Gifu AB

平成26年度日米優秀隊員表彰 Commendation for JASDF & USAF Brilliant Soldier in FY 2014

平成 26 年度 JAAGA 日米隊員表彰式が、2 月、那覇、三沢及び横田の空自基地において実施された。本表彰行事は平成 10 年度に開始されて以来 17 回目の実施となり、表彰者数は総計 117 名(空自 66 名、米空軍 51 名)を数えた。

— 沖縄地区表彰式 — Okinawa area

平成 26 年度沖縄地区 JAAGA 表彰行事が、2 月 6 日(金)、空自那覇基地で実施された。

表彰式は基地講堂において、祝賀会食は基地隊員食堂において開催された。それぞれ空自からは南西航空混成団司令荒木淳一空将、第 83 航空隊司令兼那覇基地司令鈴木康彦空将補以下 12 名、米空軍からは第 18 航空団司令 Brig. Gen. James B. Hecker 以下 8 名の出席、そして那覇基地協力者として沖縄県防衛協会事務局長山縣正明氏、那覇基地協力会監事嘉手苅恒瑛氏他 4 名のご来臨を頂き、外衛会長、名富沖縄支部事務局長以下 4 名の JAAGA メンバーを含め、総勢 30 名による実施となった。

表彰式は、安藤義隆 2 等空尉以下 16 名の南西航空音楽隊による日米国歌の演奏から始まり、続く外衛会長の挨拶では、平素のわが国の安全保障への貢献に対する日米両部隊へのお礼、本表彰事業の意義、被表彰者への祝意と感謝、そして本表彰行事に係る多くの関係者、特に那覇基地の積極的なご協力、ご支援に対するお礼が述べられた。

今年度の空自側被表彰者は第 83 航空隊の阿比留浩次 2 等空曹で、平素から日米両国の関係強化の重要性を深く認識し、日米の警備犬担当者間の交流を促進し、バスケット・ボール等の親善交流を部隊レベルで推進するなど日米間の相互理解と友好親善に貢献した功績が、また米空軍側被表彰者は第 18 航空団の MSgt. Cedric Foster で、両国部隊間の着実な関係進展の機会を創造し強化する極めて重要な役割を果たすとともに、嘉手納基地の内外において日米相互交流活動に貢献するなどの功績が、それぞれ認められたものである。外衛会長から日米の被表彰者に表彰状と記念楯が授与され、被表彰者の功績が祝福された。また、残波ロイヤルホテル勤務の小川徳彌会員から残波ロイヤルホテルのご好意による同ホテル無料宿泊券 2 名分が副賞として被表彰者に手渡された。その後、米空軍代表の Hecker 団司令と空自代表の鈴木那覇基地司令から祝辞があり、受賞者へのお祝いと敬意の言葉とともに、日米両国の協調がこの地域の安定と繁栄に寄与していること、そして空自と米空軍との間の絆強化の重要性、受賞者の活動が仲間意識と団結の強化に貢献したこと、家族等の支援へのお礼と感謝などが異口同音に述べられた。

表彰式後の祝賀会食においては、まず沖縄防衛協会事務局長の山縣正明氏から祝辞と乾杯の発声があり、日米出席者の和気藹々の祝賀会となった。被表彰者挨拶では阿比留 2 曹が周囲の人々の支えがあって受賞できたこと、後輩を育て今後も日米友好の要石に



JAAGA Commendation Ceremony in Naha AB on 6 Feb.2015. 30 people, including President Hokazono, Lt. Gen. Araki, Maj.Gen. Suzuki and Brig. Gen. Hecker attended. TSgt. Koji Abiru, JASDF and MSgt. Cedric Foster, USAF are commended

なる旨を述べ、MSgt. Foster が、受賞が名誉であること、日米両空軍の友好関係強化に今後とも頑張りたいとの決意を述べた。

このように平成 26 年度沖縄地区 JAAGA 表彰行事は受賞者を称える温かな雰囲気の中で終了した。

(秦理事記)

— 関東地区表彰式 —

kantou area

2 月 13 日(金)、平成 26 年度関東地区 JAAGA 表彰行事が空自横田基地において実施された。

表彰式は基地講堂、祝賀会食は将官宿舎レセプションルームにおいて開催された。それぞれ空自からは作戦システム運用隊司令兼横田基地司令の柏瀬静雄 1 等空佐、作戦情報隊司令関谷智幸 1 等空佐、航空支援集団司令部総務部長伊東修 1 等空佐以下 13 名の隊員、米空軍からは第 374 空輸航空団航空医学中隊長 Lt. Col. Maureen Farrell 以下 5 名の軍人、そして横田基地周辺協力者として横田基地協力会会長山下真一氏、横田基地 OB 会会長糸永正武氏他計 6 名の皆様のご来臨を頂く中、小川副会長以下 4 名の JAAGA メンバーを含めた総勢 28 名の参加者を得て実施された。

表彰式は、小川副会長の挨拶から始まり、米軍及び空自の活動に対する謝意と平素の JAAGA 活動へのご支援に対する感謝、そして本表彰行事に係る関係者、特に空自横田基地の隊員による積極的なご協力、ご支

援に対するお礼が述べられた。

今年度の空自側受賞者は、作戦情報隊の高橋正幸空曹長(空自横田基地)、航空支援集団司令部の西ひとみ 2 等空曹(府中基地)で、それぞれ日米各種交流行事での積極的な貢献や日米関連事業での活躍が認められたものである。また米空軍側受賞者は、第 374 空輸航空団の SSgt. Jonghwan Kim (米軍横田基地)で、横田基地における多くの交流行事に参画し日米交流プログラムを積極的に推進した功績が認められたものである。小川副会長から、日米 3 名の受賞者それぞれに表彰状と記念楯が授与され、その功績が賞賛された。関谷作情隊司令、伊東支集団総務部長及び Farrell 第 374 空輸航空団航空医療中隊長から、それぞれ受賞者を称えるとともに、日米同盟が一層重要になる中、強固な関係を築く上で相互の一層の信頼関係向上が不可欠であり JAAGA が両者の架け橋になってくれるようお願いする旨の祝辞が述べられた。

表彰式後の祝賀会食においては、まず横田基地協力会の山下会長から受賞者へのお祝いと日米同盟の重要性を強調された祝辞を頂くとともに乾杯の音頭をとって頂いた。その後、3 名の受賞者からは、それぞれ、今回の受賞を光栄に思うこと、支えてくれた上司、同僚、家族への謝意、そして今後も一層日米関係強化のため尽力するとの決意が表明された。こうして平成 26 年度関東地区 JAAGA 表彰行事は有意義かつ楽しい雰囲気の中で幕が閉じられた。

(秦理事記)



At JAAGA Commendation Ceremony in Yokota AB on 13 Feb. 2015, 28 people, including Vice President Ogawa, Col. Kashiwase, Col. Sekitani, Col. Itoh and Lt. Col. Farrell attended. CMSgt. Masayuki Takahashi, TSgt. Hitomi Nishi, JASDF, and SSgt. Jonghwan Kim, USAF are commended



— 三沢地区表彰式 —

Misawa area

三沢地区 JAAGA 表彰行事が、2 月 20 日(金曜日)、空自三沢基地において実施された。

基地講堂において表彰式が、幹部食堂において祝賀会食が開催された。それぞれ、空自からは北部航空方面隊司令官尾上定正空将、同副司令官増子豊空将補、第 3 航空団司令兼三沢基地司令井上浩秀空将補以下 8 名、米軍三沢基地からは第 35 戦闘航空団司令兼米空軍基地司令の Col. Timothy J. Sundvall 以下 7 名が参列し、また三沢基地周辺協力者からは三沢市防衛協会会長山本昭三氏他 3 名の皆様のご来臨を頂く中、菊川副会長以下 4 名の JAAGA メンバーを含めた総勢 23 名での実施となった。

表彰式は冒頭、菊川副会長が挨拶し、日本を取り巻く厳しい国際環境と信頼に基づく日米同盟強化の益々の必要性、日米の部隊の平素の活動に対する謝意、表彰行事の目的の紹介及び JAAGA の活動への積極的なご協力、ご支援に対するお礼と今後なお一層のご理解、ご協力をお願いについて述べた。

今年度の三沢基地における空自側受賞者は、三沢気象隊の日向端司空曹長で、日米下士官交流会や日米基地行事での司会等の細部調整、みどり会交流での通訳との細部調整を実施した功績が認められたものである。また米空軍側受賞者は、第 35 戦闘航空団の MSgt. Michael Woroniecki で、三沢基地における

米空軍と空自との様々な活動において指導的な役割を担い、またこれに参画した功績が認められたものである。菊川副会長から、日米両名の受賞者にそれぞれ表彰状と記念楯が授与され、その功績が称え祝福された。Sundvall 米軍三沢基地司令からは、2 名の受賞者の功績を称えつつ、日米友好に努力している現場の下士官達をはじめ JAAGA に対する謝辞が述べられた。また井上空自三沢基地司令からは、受賞者へのお祝いの言葉とともに、三沢基地は日米友好を象徴する基地であり、友好親善に寄与した隊員を表彰してもらうことは、特に意義深いことであるとの祝辞があった。

表彰式後の祝賀懇親会においては、つばさ会三沢支部長の倉持昌郎氏が、「厳粛な雰囲気の中での受賞は受賞者にとって一生の名誉になるであろう。このことを心に刻んで欲しい」と述べ、更なる友好親善を祈念して乾杯の音頭をとった。その後、日米の受賞者からそれぞれ挨拶があり、MSgt. Woroniecki からは、日頃の奥様の支えに謝するとともに、語学力を生かして日米両空軍の友人のために引き続き努力したい旨の、そして日向端曹長からは、本日の受賞が、自分を取り巻くすべての人の力の賜物であるとの謝辞とともに、引き続き日米下士官交流の増進のために努力したい旨の決意が、それぞれ述べられた。最後に JAAGA 三沢支部の丸山支部長からお礼の挨拶と乾杯の発声があり、平成 26 年度三沢地区 JAAGA 表彰行事は有意義かつ暖かい雰囲気の中で幕が閉じられた。

(秦理事記)



At JAAGA Commendation Ceremony in Misawa AB on 20 Feb. 2015, 23 people, including Vice President Kikukawa, Lt. Gen. Oue, Maj. Gen. Masuko, Maj. Gen. Inoue, Maj. Gen. Asai and Col. Sundvall attended. CMSgt. Tsukasa Hinahata, JASDF and MSgt. Michael Woroniecki, USAF are commended

— 受賞者及び功績の概要 —

Recipients and their Achievements

平成 26 年度 JAAGA 賞の受賞者の所属・氏名・功績等は下表の通りである。彼らの日米両エア・フォースの友好親善と相互理解の増進並びに日米両国間の友好基盤と信頼関係の構築への多大な貢献に対して表彰状と記念品を贈呈して顕彰した。

区分	所属部隊	受賞者	功績の概要
空 自	三沢気象隊 (三沢)	 空曹長 日向端 司	日米下士官交流会、三沢基地航空祭、みどり会、北空司令官杯綱引き大会懇親会等において、日米友好親善に貢献した。 Contribution to U.S.-Japan Relations in Misawa AB
	作戦情報隊 (横田)	 空曹長 高橋 正幸	空自連合准曹会横田支部副支部長として、日米下士官交流及び横田基地行事に積極的に参加し、日米友好親善に貢献した。 Contribution to U.S.-Japan Relations in Yokota AB
	航空 支援集団 司令部 (府中)	 2等空曹 西 ひとみ	納涼祭、音楽祭などの府中基地行事における通訳業務、日米下士官交流での准曹士先任の活動の補佐(通訳)、着物の着付け、お茶などに積極的に参加するなど、日米友好交流に貢献した。 Contribution to U.S.-Japan Friendship in Fuchu AB
	第83航空隊 (那覇)	 2等空曹 阿比留 浩次	両国部隊間の着実な関係進展の機会を創造し強化する極めて重要な役割を果たすとともに、嘉手納基地内外における日米交流プログラムを積極的に推進した。 Promotion of U.S.-Japan Exchange Program in Kadena AB
米 空 軍	第35戦闘 航空団 (三沢)	 Master Sergeant Michael Woroniecki	三沢基地における米空軍と航空自衛隊との様々な活動において指導的な役割を担い、またこれに参画した。 Leadership role in various activities between JASDF and USAF in Misawa AB
	第374空輸 航空団 (横田)	 Staff Sergeant Jonghwan Kim	両国部隊間の着実な関係進展の機会を創造し強化する極めて重要な役割を果たすとともに、嘉手納基地内外における日米交流プログラムを積極的に推進した。 Promotion of U.S.-Japan Exchange Program in Yokota AB
	第18航空団 (嘉手納)	 Master Sergeant Cedric Foster	両国部隊間の着実な関係進展の機会を創造し強化する極めて重要な役割を果たすとともに、嘉手納基地内外における日米交流プログラムを積極的に推進した。 Promotion of U.S.-Japan Exchange Program in Kadena AB

SPORTEX' 14B 開催 “SPORTEX'14B” took place at Tama Hills G.C.



Players say “Smile” under fine weather on 28 Mar. 77 golfers, 33 JAAGA members including President Hokazono, 24 JASDF members including Lt. Gen. Sugiyama, Lt. Gen. Fukue and 20 USAF members including Lt. Gen. Angelella, Brig. Gen. Krumm enjoy playing

3月28日(土)、SPORTEX' 14Bが米軍多摩ヒルズ・ゴルフ・コースにおいて開催された。

当日は夏日を思わせる陽気で絶好のゴルフ日和であった。今回の大会には、空自からは航空総隊司令官杉山良行空将及び航空支援集団司令官福江広明空将他22名が、米空軍からは第5空軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella、同副司令官 Brig. Gen. David A. Krumm 他18名が、JAAGAからは外薗会長をはじめ会員33名が参加した。航空幕僚長齊藤治和空将は要務のため急遽欠席となった。なお、本大会の開催に当たっては米軍多摩ヒルズ・ゴルフ・コース関係者からの全面的なバック・アップと日米双方から3名の競技支援を受けた。

早朝5時にゴルフ・コースがゲート・オープンされると参加者がぞくぞくと入門、5時半からクラブ・ハウスにて朝食、懇談等の後、6時半から開会式が行われた。開会式では外薗会長、杉山総隊司令官及び Angelella 司令官からそれぞれオープニング・リマークスを頂き、記念撮影の後、各パーティ毎にそれぞれのスタート・ホールに着き、ショットガン・スタート方式により、7時に一斉に競技が開始された。

桜のつぼみも開き始めた暖かなコンディションの中、スコアの出来を天候のせいにはできないとばかり皆真剣にクラブを振りつつも日米友好と会員間の親善を醸しつつ和気藹々の雰囲気の中競技が進行した。

競技終了後、参加者はプレー内容を楽しく歓談しながら昼食を終え、成績発表、表彰式が行われた。表彰式では米側最優秀者に JAAGA 会長賞、日本側最優秀者に5空軍司令官賞、当日賞(28位)に航空幕僚長賞が贈られた他、飛び賞、ドラコン及びニアピン賞等各賞が贈られた。閉会式においては、外薗会長から、近々

退官され米国へ帰国される予定の Angelella 司令官に対し、5度にわたる日本での勤務に対する慰労と米空軍と空自の同盟・友好の強化に尽力されたことへの感謝の意を込めて、NHKの朝ドラ「マッサン」で有名になったウィスキー「竹鶴」がプレゼントされた。これに対し Angelella 司令官からは冒頭 JAAGA へ本競技の企画実行への謝意を述べられるとともに、「好天をもたらした私の『晴れ男運』を次の司令官に申し送っていききたいと思う。日本での勤務は本当に充実していた。特に航空自衛隊と米空軍がより緊密な関係になっていくことに遣り甲斐を感じながらいい仕事ができたと実感している。後任者の議会承認が得られたので6月5日にチェンジ・オブ・コマンドの予定となる。退役後も日米関係強化のために活動する予定であり、今後は米国で皆さんと再会できることを楽しみにしている」旨の挨拶があった。

最後に外薗会長から米軍競技支援者と多摩ヒルズ・ゴルフ・コース関係者へのお礼が述べられ、午後1時過ぎ、SPORTEX' 14Bは参加者の満足した笑顔とともに無事終了した。

(早坂理事記)



(left) Evaluation meeting during luncheon after play. (right) President Hokazono gives special gift to Lt. Gen. Angelella going to leave Japan this coming Jun.

JAAGA講演会：空幕防衛部長 Lecture for JAAGA members on 17 Feb. 2015 at Grand Hill Ichigaya

講師：空幕防衛部長 三谷直人 空将補
演題：航空自衛隊の現状と課題
期日：平成 27 年 2 月 17 日(火曜日)



Guest speaker Maj. Gen. Naoto Mitani, Director, Defense Planning and Policy Department gives a lecture "The present situation of JASDF"

講師は防大 29 期生で職種は航空機整備であり、空幕人事計画課長、5 空団司令、1 補長、防衛監察本部航空監察官を歴任、昨年 8 月より現職にある。講演は、その全体像を聴講者がイメージ・アップ出来るように、「航空自衛隊の現状」と「今後の課題」に大別しつつ、以下 8 項目にそって行われた。

<航空自衛隊の現状>

- I 我が国周辺の安全保障環境
- II 大綱・中期・27 年度予算
- III 日米防衛協力
- IV 防衛協力・交流

<今後の課題>

- V 南西地域の防衛体制の強化
- VI 宇宙利用の推進に係る取り組み
- VII サイバーに係る取り組み
- VIII 能力構築支援

各項目ごとに陰影を深めながら進められた講演は、講師の米国留学、防衛力整備の主管者、部隊指揮官等、幅広い経験と信念に裏打ちされた見識が随所に現れ、興味の尽きぬ内容となった。

まず、空自のおかれた現状を整理しその概要が、一つ一つ具体的事象・案件を踏まえつつ語られた。I～IIについては、日本周辺空

域における中国やロシアの航空機による活動の活発化、北朝鮮の弾道ミサイル等の活動が紹介され、大綱・中期・27 年度における防衛力整備上の主要事業が説明された。

III～IVにおいては、アジア太平洋地域及びグローバルな安全保障環境の変化に伴う「日米防衛協力の指針」いわゆる「ガイドライン」見直しの必要性和その内容に関する説明がなされると共に、近年の具体的な日米防衛協力における空自の取り組みが語られた(RFA、CNG 等の日米共同訓練、グローバルホークの三沢一時展開、TPY-2 経ヶ岬配備、F-35 リージョナル・デポの設置等)。

更に、全般的な防衛協力・交流においては、空幕長等と各国空軍参謀長等間のハイレベル交流が拡大し、空自創設 60 周年記念に伴う空軍参謀長等招へい行事(ACDJ)が成功裏に終了したことに言及しつつ、実務者間、部隊間交流、教育交流、そして多国間対話等が積極的平和主義を支える重要な施策として鋭意推進されていることが語られた。

これらの現状を踏まえ、今後の課題においては、Vの項目として「航空優勢の確実な維持」を主眼とした南西地域の防衛態勢の強化の在り方が、静かな中にも強い思いを感じさせる語り口で説明された。

VIについては、「宇宙利用の推進」に係る取り組みに関する内容であり、宇宙状況把握による「スペースデブリとの衝突防止」等、空自が新たに対処すべき宇宙空間に係る説明がなされ、一世代以上古い JAAGA 会員にとっては新鮮かつ瞠目すべき聴講内容となった。



JAAGA members listen to the lecture enthusiastically and respectfully

VIIにおいてサイバーに係る取り組みが語られたが、宇宙空間と同様、新たな対処空間の出現に、聴講者一同、あらためて多種多様な任務に対応を迫られる空自の現状と課題に想いを馳せた。「兵器システムに対するサイバー攻撃対処機能の整備」「サイバー攻撃等対処要員の育成」が喫緊の課題と語る講師の言葉に肯きつつ聴き入る会員も多かった。

最後の項目であるVIII「能力構築支援」では、「空自の有する知見を活用し途上国の軍等の能力向上を支援」する活動が紹介された。ベトナム、インドネシア、フィリピン等への「飛行安全管理」「航空気象」等の教育指導を通じた信頼醸成活動であり、空自の幅広い活動の一端を如実に表すものであった。

1時間半の講演の後、聴講者から多くの質問がなされたが、いずれも現下の厳しい状況において前進する空自に想いを込めたものであり、講師からも空幕担当者時代に諸先輩から受けた薫陶内容が懐かしげに披露され、空自の今後の対応に係る信念が吐露された。

最後に、外薗会長から、「空自の現状と課題に係る丁寧かつ具体的な説明」と「今後予想される困難な局面においてもゆるぎない確固とした信念の表明」に深く感じ入ったとする講師に対する謝辞があり講演会は終了した。(杉山理事記)



Participants ask questions in various points of view after lecture

平成26年度「つばさ会／JAAGA訪米団」報告会 Report to JAAGA member on 17 Feb. 2015 at Grand Hill Ichigaya

平成26年度の「“つばさ会／JAAGA訪米団”報告会」が2月17日(火)1320からグランド・ヒル市ヶ谷「芙蓉の間」においてJAAGA講演会に先立ち実施された。

講演に先立ち外薗健一朗会長より「雪の可能性も予報されていた寒く冷たい天候の中、御参集頂いたことに感謝する」旨の挨拶がなされると共に、昨年実施された“つばさ会／JAAGA訪米団”に係る印象として「ハワイの太平洋空軍司令部と空自の関係における緊密度の更なる深化」と「ワシントンDCにおける鈴木昭雄元空幕長と米国側JAAGA名誉会員間の心温まる旧交を叙する光景」について紹介がなされた。

彌田清担当事務の司会進行により「石野次男理事によるJAAGA訪米団報告会」を正会員55名、法人会員25名、個人賛助会員

4名、計84名が熱心に聴講した(細部、JAAGAホームページ<http://www.jaaga.jp>/参照)。

(杉山理事記)



JAAGA Director Tsugio Ishino reports on “The summary of visit to AFA General Meeting in FY 2014 by co-organized delegation of TSUBASA-KAI and JAAGA”

平成26年度 三沢基地研修

JAAGA Members' Visit to Misawa AB on 24~25 Feb. 2015

2月24日(火)、25日(水)の2日間、JAAGA会員の三沢基地研修が行われた。研修団は、山下守氏を団長、大野富美男氏を副団長とする賛助会員22名(法人12名、個人10名)及びJAAGA理事5名(平田、宮脇、阿部、石野(貢)、木村(和))の総勢27名で結成され、山本三沢支部事務局長も現地で研修支援にあたった。

三沢基地は初日午後に強風ウォーニングが発令されたが期間中よく晴れ渡り、積雪も日陰や芝地にまばらに残っている程度で、研修に適した日和となった。研修団員は、結果的に5分前の精神で行動する等時間厳守が徹底し、講話や見学の間では熱心にメモを取り質問し、懇親会では幅広く交流し、大いに研修の成果を上げることが出来た。島根県、石川県、現地三沢からの参加者もあり、JAAGAの会員であることを誇りに思うとの声も聞かれた。日米三沢基地は、万全の態勢で研修団を受け入れてくれた。両基地では三沢市との連携が強調され、三沢市長の方針「共存共栄」の通り、基地と地元が極めて良好な関係にあることが様々な場面で滲み出ている。日米の指揮官からは、JAAGAによる隊員表彰(注:三沢基地における表彰を前週20日(金)に実施)への感謝と今後の継続希望が表明された。本研修を成功裏に終えられたことは、研修団員個々の自覚の高さもさることながら、準備段階からの三沢・入間基地の航空

自衛隊部隊等、米空軍三沢基地、航空支援集団、及び航空幕僚監部の多大なる尽力とJAAGAに対する厚い信頼の賜であり、改めて関係隊員諸氏に感謝申し上げる。

【1日目(2月24日(火))】

08:35 入間基地稲荷山門に集合完了、空幕総務課員から北空作成のコンパクトな日程等資料を受領後、入間基地車両で空輸ターミナルに移動し、結団式を行い、本研修をスタートした。中部航空方面隊司令官平本正法空将、中部航空警戒管制団司令兼入間基地司令山本祐一空将補には、多忙な中、懇談、見送りを頂けた。

10:00 入間基地発 11:10 三沢基地着

空自 C-1 は定刻通り運航されたが、三沢への着陸進入時に揺れが続き、体験搭乗は人によっては強烈な思い出となった。三沢基地到着後、山下団長、大野副団長、平田理事、木村理事(注:以後の表敬も同じメンバー)が第3航空団司令兼空自三沢基地司令井上浩秀空将補を表敬し、他の団員は厚生センターで買い物や休憩をした。11:55 から幹部食堂において、北部航空方面隊司令官尾上定正空将、同副司令官増子豊空将補、井上基地司令の参加を得て体験喫食が行われた。予算事情厳しき中、部隊の努力により実現した念願の部隊食を頬張り、身体の中から自衛隊を感じ取ることが出来た。満腹になったところで井上基地司令から「良い天気をJAAGAが連れてきてくれた。現場の隊員を見てほしい」との挨拶があり、続いて山下団長から「東日本大震災を経て国民は、自衛隊を日本の誇りと見ている。日米の連携、共同についてしっかり研修したい」と抱負が述べられた。

12:45 空自三沢基地研修

予定を15分早めて、盛りだくさんの研修が始まった。概況説明は、新庁舎内の基地講堂において、三沢基地の概要、基地所在部隊と任務、在三沢米軍の状況、地元・米軍との交流・協力の順に、3空団監理部長石川雅章2等空佐がスライドを使って説明し、質問には主として井上基地司令が対応された。終了後も暫く賛助会員と理事の間で熱心に意見交換が行われた。13:15 から格納庫に移動し、航空機、装備品を見学した。早期警戒機 E-2C については、警戒航空隊飛行警戒監視群司令菅原謙一1等空佐から三沢と那覇を拠点とした任務の説明を受けた後、同飛行主任から機体について、機上兵器管制官からシステムについての説明があった。操縦も管制も難しい機体であり、「パイロット、コントローラー冥利に尽きる」との端的な言葉に運用者の誇りを感じた。13:50 から3空団エリアに場所を移し、戦闘機 F-2、エ



Courtesy call on Lt. Gen. Oue, Commander of Northern Air Defense Force, and Maj. Gen. Inoue, Commander of 3rd Air Wing and Misawa AB, JASDF



Enjoying the same lunch as JASDF members at the Officers Mess Hall, Misawa AB, JASDF

ンジン、各種弾薬類、そして1週間前に配備されたばかりの新型破壊機救難消防車を2個グループに分かれて見学した。見学中にはF-2が相次いで離陸する轟音が響き、臨場感が盛り上がった。格納庫では3空団飛行群司令、同整備補給群司令、同基地業務群司令の他、担当部隊の隊長、小隊長、隊員が直接説明、質疑応答にあたり、部隊側の手厚い対応によって、団員の理解はより深まった。

15:35 北空司令官講話

15:15から代表者が尾上北空司令官を表敬した後、基地講堂において司令官講話が実施された。冒頭、JAAGAによる隊員表彰への謝辞が述べられ、引き続き3時間を要する内容を30分に圧縮し、我が国を取りまく安全保障環境(地理的環境、周辺国の状況、対領空侵犯措置の状況)及び三沢における日米同盟の現状、取組み(日米同盟の全体像、三沢基地における米グローバル・ホークの運用、日米共同訓練、F-35A導入計画)についての精力的な講話、質疑応答が行われた。6,300名の隊員からなる北空の視察もあと4個分屯基地で一巡する旨、嬉しそうに語られた。

18:30 JAAGA 主催夕食会(18:00 ウェルカム・ドリンク)

16:15から代表者が第35戦闘航空団司令兼米空軍三沢基地司令 Col. Timothy J. Sundvallを表敬し、他の会員は米軍宿舎「三沢イン」にチェックインした。なお、表敬者4名のチェックインは米軍側で代行の便宜を図ってくれた。基地内の将校クラブにおけるJAAGA主催夕食会は、招待者として空自から尾上北空司令官、増子同副司令官、井上基地司令、牧野三沢病院長が、米空軍第35戦闘航空団からはサンドバル団司令以下各群司令等6名が参加した。当初の30分間は片手にグラスを持ち適宜移動しながら、会員と招待者が日米入り交じってにこやかに懇談していた。会場が和んだところで宮脇理事の進行により、まず、ホスト側代表として山下団長から、研修受け入れへの感謝と東日本大震災時の支援に対する米軍への感謝、JAAGA会員として日米同盟の深化のため空自・米空軍を支援していく、旨の挨拶が述べられ、続いてゲスト側代表として尾上北空司令官



Mr. Yamashita, JAAGA Tour Leader, makes an opening speech as the host of friendship dinner at the Officers Club, Misawa AB, USAF



JAAGA members listen carefully to JASDF Base Briefing and study F-2, E-2C, A-MB-2 new-model Fire Fighting Vehicle, and other equipments by observation

の挨拶、Sundvall団司令の乾杯で、会食が始まった。4つのテーブルそれぞれで会話が弾み、各テーブルでの話の中身は様々であろうが、米軍のある指揮官が、近い将来退役した後は三沢に定住すると熱心に語っていたのが、三沢における空自、米軍及び三沢市の良好な関係を如実に表しているものとして、印象的であった。笑顔と明るい声の中、あっという間に1時間半が過ぎ、ゲストである井上基地司令の納杯の音頭で閉会となった。名残惜しくはあったがバスの都合があり、宿舎に戻った。団員の半数近くはその後市内に繰り出し、半数は宿舎で寛ぎ、一部は50m近く離れた屋外喫煙所で寒空の中思いに耽り、1日目終了した。

【2日目(2月25日(水))】

07:35、三沢インのロビーに集合し、米軍のバスで将校クラブへ行き、バイキング形式での朝食をとった。改めて室内を眺めると、歴代米軍団司令の顔写真や陳列された記念品に加えて、歴代三沢市長の写真が壁に掲げてあった。

09:00 米軍第 35 戦闘航空団司令講話

講話会場には「I am an American Airman」のスローガンとともに日米国旗と部隊旗が設置され、デジタル時計は日本、グリニッジ標準時、ワシントン、ハワイの時を刻んでいた。Sundvall 団司令は飛行服姿で、前方、左側方、後方に座る会員に適宜体を向けながら、郷里、軍歴、勤務地、家族、任務等について、約 50 分間にわたりリラックスした雰囲気です話し質問に応じられた。家系のルーツはスウェーデンであること、養子を含めた 6 人の子供全員が三沢に一緒にいること、20 年近く前の新婚時代に三沢で長男が生まれたこと、当時と同じ日本人の床屋に現在も世話になっていること等々、人間味溢れる話しぶりであった。そんな中、指揮官としての方針は、任務、兵士、家族であり、あくまでも任務第一であることが強調された。また、一つのチーム・コミュニティとして三沢市とは大変良い関係にあること、JAAGA の隊員表彰に大変感謝していることが表明された。なお、計画にはなかったが即決で、Sundvall 団司令は昼食までずっと研修団に同行して下さった。

10:00 F-16、装備品、エンジン整備施設等研修

3 個グループに分かれて戦闘機 F-16、パイロット装具、各種弾薬類を見学した。広大な格納庫でまず目についたのは、壁面に掲揚された大きな日の丸と星条旗である。JAAGA 研修団のためではなく、日頃から掲げてあるこ



JAAGA members are excited to study F-16 and other associated equipments and overwhelmed by full-powered test run of its Engine



With Col. Sundvall, Commander of 35th Fighter Wing and Misawa AB, USAF

とを知り嬉しく感じた。パイロット装具は試着でき、写真撮影も一部を除き許可される等、研修団に最大限の配慮をしてくれた。引き続きバスで滑走路北側地区に移動し、11:00 からエンジン・テストスタンドとエンジン・ショップを見学した。テストスタンド内ではアフターバーナー全開の実展示にはらわたを揺さぶられ、ショップでは下士官の熱心な説明に心を揺さぶられた。その後、ゴルフ場プロショップに立ち寄り、買い物や小川原湖の眺望を楽しんだ後、再び滑走路南側地区に戻り、12:15 から将校クラブで食事をとった。三沢基地最後の食事は巨大なハンバーガーであったが、殆どの団員が完食していた。Sundvall 団司令が一人一人を回って言葉をかけ、握手した後に颯爽と退室された姿が印象的であった。

14:00 三沢基地発 15:10 入間基地着

帰路は往路と一転、揺れもなく快適なフライトで、安心して居眠りをする団員の姿が多く見られた。出発時と同様に、平本中空司令官、山本入間基地司令の出迎え、同席を得て、解団式において山下団長から「良い研修が出来た。計画作りも大変だが、時間通りに実行するのも大変だ。官側(空自、米軍)の皆さんとJAAGA 理事に感謝する」との言葉があり、全員の拍手をもって本研修は全日程を終了した。稲荷山門で解散し、各自充実感とともに帰路についた。(木村(和)理事記)

Lt. Gen. John L. Dolanが第5空軍司令官に 5th Air Force welcomes Lt. Gen. John L. Dolan as New Commander



Gen. Lori J. Robinson, Pacific Air Forces Commander, passes the U.S. Forces Japan guidon to the new USFJ and 5th Air Force Commander, Lt. Gen. John L. Dolan, during a change of command ceremony

た。
JAAGA
からは、
外菌会長
以下多数
の会員が
出席した。
指揮官
交代式後
は、新司
令官 Lt.
Gen.

6月5日(金)、横田基地において第5空軍司令官兼ねて在日米軍司令官の指揮官交代式及び関連行事が行われた。

指揮官交代式は、0930から基地内第15格納庫で行われ、太平洋空軍司令官 Gen. Lori J. Robinson が、離任の Lt. Gen. Salvatore A. Angelella から在日米軍/5空軍司令官旗の返納を受け、新任の Lt. Gen. John L. Dolan に同旗を授与することで指揮権の移譲が無事に終了した。同式には、在日、在韓米軍の指揮官や横田基地所属の軍人等が多数参加した。日本側からは、福生市長をはじめとする周辺自治体の長や米軍横田基地協力会の関係者と、統合幕僚長河野克俊海将、航空幕僚長齊藤治和空将をはじめとする多くの現役自衛官が出席し

Dolan 主催のレセプションが行われ、同司令官が招待者一人一人と挨拶するなど、和やかな雰囲気だった。Dolan 新司令官は、太平洋軍司令部幕僚長に初めて空軍出身者として就いており、また F-16 操縦士としては若い頃に三沢基地において勤務した経歴も有している。
(中島理事記)



JAAGA members, Lt. Gen. Sugiyama, Commander, ADC and their wives express a hearty welcome to Lt. Gen. & Mrs. Dolan

Lt. Gen. Salvatore A. Angelellaが退役 Lt.Gen.Angelella retired from the Air Force with a smile

6月5日(金)、指揮官交代式に先立ち、第5空軍司令官兼ねて在日米空軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella の退官式が将校クラブで実施された。

同式は、太平洋空軍司令官 Gen. Lori J. Robinson 出席のもと、Angelella 司令官が5回の日本勤務を通じ親交の深かった部内外の招待者で実施された。現役は、統合幕僚長河野克俊海将、航空幕僚長齊藤治和空将をはじめ、航空総隊、航空支援集団各司令官等が、JAAGAからは外菌会長、菊川副会長等が出席した。Robinson 司令官からは、Angelella 司令官の多くの功績が紹介され、Angelella 司令官からは、延べ10年に及ぶ日本勤務について思い出が話された。特に、2プラス2の成功、日米新ガイドラインの締結、日米共同演

習・訓練の進化が印象に残っていることや、多くの日本



Lt.Gen. & Mrs. Angelella with JAAGA former president Totake, President Hokazono, Vice President Kikukawa, Advisor Kataoka, Director Nagashima and their wives

の友人と共に勤務できたことを誇りに思っている旨、述べられた。

(中島理事記)

第18航空団司令にBrig. Gen. Barry R. Cornishが着任 18 th Wing welcomes Brig. Gen. Barry R. Cornish as New Commander

4月2日(木)、米空軍嘉手納基地において第18航空団司令の交代式が行われ、JAAGAから木村貞夫会員が参加した。

指揮官交代式は、第5空軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella 主催により、米空軍の他、米海軍、海兵隊及び県内外からのゲストを向かえ執り行われた。

Angelella 司令官は、「第18航空団の歴史の一つの章を締め括った Brig. Gen. James B. Hecker から Brig. Gen. Barry R. Cornish への指揮官交代という新たな章の開始に立ち会うことは私の名誉とするところである」と述べ、更に「近年の最も妥当かつ強力な日米のパートナーシップの発展には日米双方の人的な献身と努力が要求されるが、嘉手納空軍基地と18航空団はまさにその要求に応える重要な位置付けにある。この2年間、18航空団は Brig. Gen. Hecker の卓越した統率の下、日本との同盟関係を強固に維持してきた」と Hecker 前団司令へ労いの賛辞を送った。

これに答え、Hecker 前団司令は、「あまりに短期間の

勤務で去り難い気持ちで一杯であるが、唯一の慰めはこの偉大な部隊を次の Brig. Gen. Cornish へ引き継ぐことができることだ」と挨拶した。

その後、部隊旗を授与された Cornish 新団司令は、新たに『チーム・コーニッシュ』の一員になった兵士に向かって「私は、我々に与えられた重要な任務を遂行するために全身全霊をもって日々努力することを諸君に誓う。日米のパートナーシップ機能にとって重要な時期に再び嘉手納に戻ることができ、米国のために貢献できることは私にとってとても名誉なことである」と決意溢れる所信を述べた。

Cornish 新団司令は F-15 のパイロットで、2005年2月から2008年5月まで嘉手納基地において運用部長と第67飛行隊長の経験を有する。

Hecker 前団司令 (Maj. Gen. への昇任にセレクト) は、バージニア州ラングレー・ユースティス統合基地航空戦闘軍団 (ACC) 司令部の計画・企画・要求部長に転出した。

(早坂理事記)



Change of Command ceremony on 2 Apr. 2015 at Kadena Air Base

叙勲米空軍司令官が航空幕僚長を表敬 Each USAF General Conferred a decoration call on Gen. Saitoh, COS, ASO

前米太平洋空軍司令官 Gen. Herbert J. Carlisle が3月17日に旭日大綬章の、第18航空団司令 Brig. Gen. Hecker が3月27日に旭日中綬章の、第5空軍司令官兼在日米軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella が5月12日に旭日大綬章の叙勲を受け、それぞれ航空幕僚長齊藤治和空将を表敬した。

(山本理事記)

Gen. Carlisle receiving a salute from the Special Guard of Honor at MOD on 17 Mar. 2015

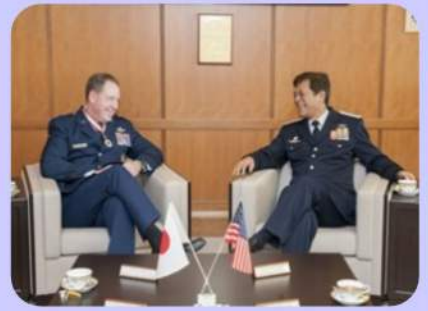




Gen. Herbert J. Carlisle



Lt. Gen. Salvatore A. Angelella



Brig. Gen. James B. Hecker



Lt. Gen. Salvatore A. Angelella叙勲祝賀レセプション

Lt. Gen. Salvatore A. Angelella is conferred a decoration

“Grand Cordon of the Order of the Rising Sun”

5月18日(月)、Lt. Gen. Salvatore A. Angelellaの約3年にわたる第5空軍司令官としての功績に対し、日本国から旭日大綬章が授与されるとともに、Angelella司令官の叙勲をお祝いする祝賀レセプションがホテルニューオータニで実施された。

レセプションは、河野克俊統合幕僚長と齊藤治和航空幕僚長の共催により実施され、日本側からは中谷元防衛大臣、左藤章防衛副大臣、西正典防衛事務次官のほか、統幕及び空幕の各副長、部長等が、また部隊から杉山良行航空総隊司令官、半澤隆彦航空教育集团司令官、福江広明航空支援集団司令官が、米軍側からは在日米軍及び第5空軍の各副司令官及び部長等が、そしてJAAGAからは外薗会長、菊川副会長他の参加があり、総勢100余名の規模で盛大に実施された。

Angelella司令官に対する旭日大綬章の伝達は、レセプション会場において中谷大臣から

行われ、日米参加者から大きな拍手が送られた。Angelella司令官からは、5回目となる今回の勤務を含め、多くの日本の友人と共に仕事ができ、日本の防衛はもとよりアジア太平洋地域の安定に貢献できたことを誇りに感じている旨の挨拶があった。Marci夫人も、日本側の多くの令夫人と楽しく歓談され、Marci夫人が日米夫人の各会で積極的に活動され大きな成果を残されたことが容易に推察できた。

日米の主要幹部が集うなか盛大に行われた叙勲祝賀レセプションは、山崎幸二統幕副長の乾杯により成功裏に終了した。
(中島理事記)



(left) Lt. Gen. & Mrs. Angelella with Mr. & Mrs. Nakatani, Defense Minister, Adm. & Mrs. Kawano, COS, JSO and Gen. & Mrs. Saitoh, COS, ASO
(right) With JAAGA members and their wives

Lt. Gen. Salvatore A. AngelellaがJAAGA名誉会員に Lt. Gen. Angelella willingly accepts to be an Honorary Member of JAAGA

5月19日(火)、第5空軍司令官兼在日米軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella を横田基地の執務室に訪問し、外薗会長からJAAGA名誉会員への就任を要請し、快諾された。上田副会長、阪東理事、秦理事、山崎理事、木村(和)理事が同行した。

冒頭 Angelella 司令官から、基地内ハイスクールの地鎮祭にたった今出席してきたこと、Brig. Gen. Barry R. Cornish をJAAGA講演会の講師に招いてもらい感謝していることに加え、前週の三沢における最終フライトの状況、前夜の叙勲レセプションの様子、退役後の活動予定等が次々と精力的に話された。

頃合いを見計らって外薗会長が、「Angelella 司令官にJAAGAの名誉会員を委嘱したい」と要請したところ、Angelella 司令官は、「喜んでお引き受けしたい」と快諾され、会長から委嘱記念の盾を司令官に贈呈した。また、「会則を改正し、太平洋空軍司令官経験者にも名誉会員を要請することとした」と伝えたところ、司令官から賛同

と歓迎の意が述べられた。

その後も、6月5日に指揮権を移譲するが退役は8月1日であり、退役までの間は「mandatory vacation」とでもいうべき期間で家族サービスに努める予定であることを、具体的な計画とともにユーモアを交えて話された。5回に亘る日本勤務については、5空軍司令官の副官の頃、まさか自分が司令官になるとは思いもしなかったことや、中佐、准将、少将、中將へ昇任したのは全て日本であったことを含め、日本への格別の思いが語られた。また、8月1日の退役時に米国でセレモニーを行うかとの質問に対し、多くの友人が居る日本でのセレモニーで十分だと Marci 夫人とも話していると応じられた。最後に、委嘱記念の盾は、引っ越し荷物に入れるのではなく、直接米国の新居に郵送し、すぐさま飾るつもりであることが披露され、名誉会員委嘱行事は和やかに終了した。

(木村(和)理事記)



President Hokazono presents the Honorary Member Plaque to Lt. Gen. Salvatore A. Angelella

特集

米空軍交換将校だより Present circumstances of "Officer Exchange Program between JASDF and USAF"

いわゆる「交換幹部」は、空自と米空軍の教義、思想及び技術の交換を通じて、両空軍間に存在する友好と相互理解の絆を強化する目的で、昭和50年9月、航空幕僚長と米空軍第5空軍司令官との間で、「交換将校に関する覚書」を交換して発足しました。制度発足以降、部門の拡大、変更を経て、平成27年4月現在、7部門(教育、飛行、航空輸送、要撃管制、通信電子、研究開発、整備)で、日米相互に要員を派遣し、人材育成、相互理解、友好基盤の醸成等、日米防衛協力の円滑な推進に寄与しています。米空軍には、他国との交換将校制度(Officer Exchange Program: 外国軍人を階級相当の職位に受け入れ、米軍人と同様の態様に勤務さ

せるとともに、相手国に米軍人を派遣する制度)があることから「交換幹部」と表現していますが、空自にはこのような制度がないことから、防衛省設置法における「役務の調達(無償)」を根拠とし、空自隊員に対する教育を目的として、空自の部隊、学校に受入れているところです。他方、空自要員は、「調査研究のための留学」として米国に要員を派遣し、実地に米空軍の運用要領、最新技術の習得に努めています。

航空幕僚監部教育課においては、各部門所掌課と協力しつつ、本制度にかかる予算要求、米国との全般調整及び派遣手続きを担当しています。

(航空幕僚監部教育課より)

受入れ状況 (H27. 4現在)

	部門	受入先部隊等	基地	階級 氏名
1	教育	幹部学校	目黒基地	Lt. Col. Steven M. Rose
2	飛行	飛行教育航空隊	新田原基地	Maj. Marc O. Morris
3	研究開発	飛行開発実験団	岐阜基地	Maj. Dick Wong
4	整備	第1術科学学校	浜松基地	Capt. Parawee Euavijitearoon
5	通信電子	第4術科学学校	熊谷基地	Capt. Patrick R. Tibbals
6	要撃管制	第5術科学学校	小牧基地	Maj. Christopher D. Bernard
7	航空輸送	第1輸送航空隊	小牧基地	Maj. Jack E. Beene

《 飛行部門 》 (Flight Category)

飛行教育航空隊 Maj. Marc O. Morris

初めて航空自衛隊の F-15 戦闘機で訓練を行ったことが、まるで昨日のように蘇ります。3 年間の交換幹部としての任期が過ぎるのは、信じられないほど早く感じています。

はじめまして、私は宮崎県新田原基地の飛行教育航空隊第 23 飛行隊で F-15J の教官操縦士として勤務しているマーク・モーリス少佐です。家族と共に約 3 年間の生活を過ごし、宮崎での勤務も残すところ約 10ヶ月です。

まずは、自己紹介から始めます。私は、ヴァンス米空軍基地で JSUPT(基本操縦課程)を履修しました。そこでは T-37 型機及び T-38 型機により飛行訓練を行い、操縦士としての資格を取得しました。その後、コロンバス米空軍基地で AT-38B 型機による IFF(戦闘機導入課程)を履修し、最後にフロリダ州のティンドル米空軍基地で F-15C 基本課程を履修しました。F-15C 基本操縦課程修了後は、2 つの戦術飛行隊に勤務後、教育飛行隊に配置されました。この間、約 1500 時間のフライトを積み上げ、F-15C の教官操縦士の資格を取得しました。F-15C 基本操縦課程時代、航空自衛隊において交換幹部(操縦士)として勤務した経験のある教官との訓練機会がありました。その際、航空自衛隊に関する多くの話をし、他国の言語を学び、海外で生活すること及び同盟国である日本で仕事をすることに魅力を感じました。そして、もし日本で仕事をする機会があれば、必ずその機会を得ようと即座に決心しました。それから 15 年が経ったいま、航空自衛隊の教官操縦士としての勤務は終わりを迎えようとしています。航空自衛隊の教官操縦士となるために、米空軍の語学学校(DLI)で 63 週間の日本語課程を履修しました。私は、この期間を含めて 2 年間近く飛行していなかったため、日本語課程を修了してから、第 23 飛行隊において F-15 の技量回復訓練から始めることになりました。技量回復訓練は、困難ながらもやりがいのあるものでありました。日本人教官の皆さん

は、日本の空を安全に飛行するために必要な飛行規則を、英語と日本語の両方を使いながら、教育してくれました。また、シミュレータでの訓練を含め F-15 のシステムや、緊急対処要領についてかなりの復習をしました。技量回復訓練に続く教官課程訓練は、猛烈なペースで進捗していったと感じています。

す。訓練内容は、空中操作、計器飛行、対戦闘機戦闘、要撃戦闘です。少しずつではありますが、航空自衛隊の F-15 による戦術や飛行要領及び飛行手順にも慣れていくことができました。

教官課程の数ヶ月間は非常に困難な期間でありましたが、第 23 飛行隊の教官方にとってもよくしていただき、必要な飛行技量のみならず、日本語の向上についても時間を割いていただいたことに対し、感謝に尽きません。そのお陰もあり、2ヶ月の厳しい期間の後、航空自衛隊の教官資格を取得するこ



Maj. Marc O. Morris and his family



Daily activities of Maj. Morris

とができました。その後、教官として500時間を超える飛行訓練を航空自衛隊の操縦学生と共に実施しました。

しかしながら、日本での思い出はフライト以外でもたくさんあります。私は妻のジョアンナと多くの良き思い出を作ることができました。交換幹部という仕事から、日本でしか経験できない独特な機会を得ることができました。北は北海道の「さっぽろ雪まつり」、南は沖縄の「美ら海水族館」まで本当に数多くの日本の観光地(広島平和記念公園、東京の浅草寺)を巡ることができました。また、娘のマデリンは宮崎県立病院で誕生しました。そして日本のおいしい食文化(すし、うなぎ、ふぐ、たこやき、カレー等)も楽しむことができました。私が日本で生活していて一番魅力的に感じた点は“人”です。日本人は皆友好的で親切、我慢強いと感じています。航空自衛隊の仕事仲間との歓送迎会、バーベキュー、また近所の方々と日本で知り合った人たちとの交流は非常に楽しいものでした。日本を去る日が近づいていますが、日本で生活し、仕事をする機会を得られたことを感謝しています。そしてこれからも日本という国は私にとって特別な場所であると確信しています。

《通信電子部門》

(Communications & Electronics Category)

第4術科学校 Capt. Patrick R. Tibbals

始めまして。私は、2013年の秋から航空自衛隊熊谷基地の第4術科学校で米空軍交換将校として勤務しているPatrick Rory Tibbalsです。階級は大尉で、専門はサイバー作戦です。熊谷基地では多様な通信、サイバー、米軍と米空軍の組織・制度などのトピックについて航空自衛隊の幹部と空曹の学生に教育をしています。また基地内の行事にも積極的に参加しています。

私はこれまで空軍基地通信部門、移動通信部門、作戦計画部門で勤務しました。来日前に交換将校業務の準備として、カリフォルニア州の米国防総省外国語学校の日本語学部で日本語を1年半学びました。今でも日本語は堪能ではありませんが、簡単な日本語は大体理解でき、話すことができます。以前、アリゾナ州の第12空軍司令部で3年間働きました。そこでの仕事は2つ。1つは、中央アメリカと南アメリカにおける空軍作戦の通信計画です。2010年のハイチで発生した地震における国際人道支援作戦の通信計画を立案し、参加しました。もう1つは第12空軍司令官の副官として、スピーチライター及び特別プロジェクト・オフィサーとしての勤務でした。

現在、日本に住んで働き、空軍経歴の中でも一番面白く、難しく、でも楽しく、興味深い経験をしています。日々、新しい経験を積んでいます。面白さと難しさは、航空自衛隊と米空軍の勤務を比較すると同じ位ですが、組織、

文化、方法は大きく異なります。10年間、私は米空軍人としての経験はありましたが、熊谷に配置され、航空自衛隊の習慣を一から学ばなければならませんでした。例えば軍事教練、1つを取っても米軍とは異なり、最初は戸惑いました。しかし、面白く、興味深いことは非常に多く、自衛隊の文化、作戦などの教育には魅力があります。さらに多くの自衛官と友人となることができました。この友情を今後も保ち続けたいと思っています。また日米エアフォース友好協会が日米関係を強化してくれていることで、私が年に数回、JAAGAのイベントに参加できることを非常に嬉しく思っています。日米関係は日本周辺地域防衛のために非常に重要です。米空軍と航空自衛隊の理解、友情は防衛力の強化に寄与しています。そして、私を含め、他の基地で活躍する交換将校はその一翼を担う大切な役割を持っていると思っています。

仕事だけではなく、日本での生活も日々、楽しんでいきます。熊谷に妻と4歳の娘と一緒に住んでいます。私たちは熊谷の生活、地域のお祭りなどが好きになりました。娘は日本の幼稚園に通って着々と日本語が話せるようになっていきます。また、家族でディズニーの「オタク」になってしまい、東京ディズニー・ランドとディズニー・シーへよく遊びに行っています！

最後に、私は日本の仕事、生活、そして「冒険」が大好きです。簡単なことばかりではありませんが、この経験を非常に大切にしたいと思います。これからも日米関係強化のために頑張りたいと思います。



Capt. Patrick R. Tibbals



A scene of his lesson

平成27年度事業予定表

実施時期		1/四半期				2/四半期				3/四半期				4/四半期		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
1 日米隊員の 激励等	(1) 日米共同訓練参加隊員の激励等															
	(2) 日米隊員の表彰															
	(3) 日米隊員の交流活動等激励															
2 米空軍軍人の 日本研修等支援	(1) 米空軍軍人の日本文化研修支援															
	(2) 米空軍軍人の地域行事等支援															
3 JAAGAと 空自・米空軍 との交流	(1) SPORTEX'15															
	(2) 指揮官交代行事等への出席等															
	(3) 米空軍協会総会への参加															
	(4) 在日米空軍各基地との連携の強化															
	(5) 米空軍慶弔への対応															
	(6) 関係団体との交流															
4 広報及び 広報協力	(1) 日米要人等の講演															
	(2) 米軍基地等の研修															
	(3) 日米安保等に関する広報活動															
	(4) 会報「だより」の発行・配布															
	(5) 一般広報 (HPの運営等)															
5 総会等																
6 運営管理	(1) 会勢の拡大等 ・会員の拡充 ・支部の活性化等															
	(2) 組織基盤の整備等															
	(3) 会員名簿の作成・配布															
	(4) 役員会(★)・理事会(☆)															
	(5) 創立20周年記念事業の準備															
	(6) 監査															

凡例:  年間を通じて実施  実施時期未定

平成26年度決算

収 入

支 出

(単位:円)

区 分	予算額	執行額	予 算 科 目	予算額	執行額
前年度繰越	4,887,641	4,887,641	共同訓練激励費	550,000	504,153
年会費	3,933,910	4,277,730	表彰関係費	450,000	250,992
利息	1,000	699	友好親善行事費	700,000	633,362
会費返納	0	-10,000	広 報 費	1,090,000	781,860
			総 会 費	500,000	386,403
			小 計	3,290,000	2,556,770
			入会活動費	50,000	45,331
			名簿関係費	110,000	108,432
			役員会運営費	140,000	101,930
			支部運営費	80,000	80,432
			事務所運営費	120,000	120,000
			事務通信費	100,000	40,929
			小 計	600,000	497,054
			周年行事積立金	0	0
			予 備 費	200,000	0
			支 出 計	4,090,000	3,053,824
			翌年度繰越	4,732,551	6,102,246
合 計	8,822,551	9,156,070	合 計	8,822,551	9,156,070

平成27年度予算

収 入

支 出

(単位:円)

区 分	予算額	予 算 科 目	予算額
前年度繰越	6,102,246	共同訓練激励費	500,000
年会費	4,086,400	表彰関係費	360,000
利息	1,000	友好親善行事費	700,000
寄付金	0	広 報 費	1,130,000
雑収入	0	総 会 費	500,000
		小 計	3,190,000
		入会活動費	60,000
		名簿関係費	110,000
		役員会運営費	140,000
		支部運営費	80,000
		事務所運営費	290,000
		事務通信費	100,000
		小 計	780,000
		予 備 費	200,000
		支 出 計	4,170,000
		翌年度繰越	6,019,646
合 計	10,189,646	合 計	10,189,646

平成27年度役員

職 名		氏 名	
会 長		外 菌 健 一 朗	
副 会 長		織 田 邦 男、菊 川 忠 継、上 田 完 二 (新)	
理 事	理 事 長	森 下 一	
	副 理 事 長	渡 邊 至 之	
	企 画	長 島 修 照、谷 野 淳 一、彌 田 清、平 田 英 俊、清 藤 勝 則 (新)、中 島 邦 祐 (新)	
	総 務	秦 啓 次 郎、糸 永 正 武、狩 集 貴 尚、福 井 正 明、若 林 秀 男	
	渉 外	石 野 次 男、阪 東 政 詮、新 井 洋 一、高 橋 健 二、藤 田 信 之 (新)、谷 井 修 平 (新)、岩 本 真 一 (新)	
	会 員	石 野 貢 三、木 村 孝、米 沢 敬 一、森 田 公 治	
	広 報	山 本 康 正、杉 山 伸 樹、渡 部 憲 政、早 坂 正、木 村 和 彦 (新)	
	財 務	山 崎 剛 美、池 田 勝、阿 部 英 彦、日 吉 章 夫	
監 事		田 中 和 之、野 田 耕 平 (新)	
支 部 役 員	支 部 長	丸 山 泰 (三 沢)	石 津 靖 (沖 縄)
	支 部 事 務 局 長	山 本 親 男 (三 沢)	木 村 貞 夫 (沖 縄) (新)

注：(新)は新任

【退任】副会長：小川剛義
 監事：藤井泰司
 理事：辻章嗣、桃木正幸、戸田友敬、宮脇俊幸

【藤田信之元准空尉が新理事に】

この度、JAAGA 初となる元准空尉の理事が誕生しましたので、ここに紹介致します。藤田信之元准空尉(写真右)は、平成13年～平成14年航空自衛隊連合准曹会会長、平成15年から航空教育隊第2教育群で上級空曹課程指導官、平成17年から航空開発実験集団准曹士先任という経歴をお持ちです。藤田元准尉は、理事就任に当たり「空自准曹士と在日米空軍下士官とは20年来の交流があり、公私にわたる相互交流等を通じ強い絆で結ばれています。しかしながら、退職と同時に米軍との交流が途絶えてしまうケースが多くあります。多くのOBにJAAGAの活動に参画いただき、現職時代と同じく米軍との相互交流が継続できる道筋を提供したいと思っています」と抱負を述べています。



【新入会員紹介】

1 正会員

氏 名	住 所	氏 名	住 所
谷 井 修 平 氏	東京都目黒区	中 島 邦 祐 氏	埼玉県所沢市
津々谷 格 氏	東京都町田市	岩 本 真 一 氏	埼玉県朝霞市
篠 田 充 哉 氏	東京都西東京市	内 山 隆 弘 氏	埼玉県所沢市
村 瀬 敦 子 氏	埼玉県飯能市	岩 崎 茂 氏	千葉県柏市

2 個人賛助会員

氏 名	住 所	氏 名	住 所
原 野 清 隆 氏	東京都西多摩郡	照 沼 拓 氏	埼玉県所沢市
Mr. Stuart Lum	東京都福生市	村 越 政 雄 氏	東京都小金井市

【会 員 募 集】

今期は関係各位のご努力で正会員8名、個人賛助会員4名、合計12名の入会を得ることができました。
27.5.30 現在、正会員数243名、個人賛助会員数75名、法人賛助会員数42社となっており、会員数はほぼ横ばいの状況です。引き続き会勢拡張に向け、精力的に活動してまいります。

今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。
なお、本会への入会につきましては、次のとおりです。

推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当係から連絡させていただきます。

【入会資格】正 会 員：航空自衛隊のOB

賛 助 会 員：航空自衛隊のOB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】○ 郵便...〒160-0002

東京都新宿区坂町28-5 ZEEKS 四谷坂町ビル3F

日米エアフォース友好協会 会員担当 行

○メール、電話...木村 孝:(e-mail) t-kimura@fq.jp.nec.com (Tel.) 03-3456-7798

【思い出や懐かしい写真などの募集について】

日米エアフォース友好協会(JAAGA)は、お蔭様で来年(平成28年)、創立20周年の節目の年を迎えます。現在、20周年記念行事準備委員会を立ち上げ、細部の実施内容を固める作業に着手したところです。記念事業の一環として、『JAAGAの20年の足跡としての資料の収集整理』を行っています。会員及び現役の皆様に於かれましては、思い出や懐かしい写真などを募集しておりますので是非ご協力をお願い致します。

【連絡先】○ 郵便...〒160-0002

東京都新宿区坂町28-5 ZEEKS 四谷坂町ビル3F

日米エアフォース友好協会「20周年記念行事準備委員会広報担当」行

○メール...20周年記念行事準備委員会広報担当(e-mail) pubaffair@jaaga.jp

なお、20周年記念行事の概要については次のとおり。

- 開催予定日:2016.7.5(火)、予備7.13(水)
- 実 施 内 容;記念講演(又は記念シンポジウム)、感謝状贈呈式、祝賀会等
- 記 念 事 業; ①だより20周年記念行事の特集 ②JAAGAパンフレットの更新 ③その他

【編集後記】

◇ 48号も、編集員の手作りです。また、48号から、これまで役員が実施していた封筒詰から発送までの作業を業者に発注すること致しました。

◇ 特集記事は、空幕教育課のご協力を得て、米国交換将校(飛行部門及び通信電子部門)ご本人による紹介記事を掲載致しました。本企画は、次号以降も、続けていく予定です。

◇ 指揮官氏名、階級等は、記事当時のものです。

◇ 『JAAGAだより』は JAAGA ホームページ(<http://www.jaaga.jp/>)からご覧頂けます。

◇ JAAGAでは、年2回の SPORTEX 及び総会において「募金箱」(Collection Box)を設け、みなさんからの募金を募っています。集まった募金は、次年度の三沢、関東及び嘉手納スペシャル・オリンピックに寄付されます。

◇ だより編集員一同、今後も JAAGA の活動を地道にフォローしていきたいと思っておりますので、会員及び現役の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

